造影検査の説明書（MRI 検査ガドリニウム系造影剤 ）

説明日　　年　　月　　日

説明者

ガドリニウム系造影剤を静脈より注射し、より明確な画像を得る事ができます。これにより、病気の質、性状、範囲などを正確に評価できるようになります。
ただし、造影剤を使用する事により、下記に示すような副作用が起こる事もあります。

【ガドリニウム系造影剤の副作用の頻度】

軽度の症状	：100 人に１人（悪心、嘔吐、発疹、じん麻疹など軽く一時的なもの）
重度の症状	：20000 人に１人（呼吸困難、痙攣発作、ショック症状など）
死亡	：800000 人に１人

検査前の注意!!

- 以前、造影剤を使用されて副作用が起きたことがある方、またはぜんそくやアレルギー体質の方は造影剤の副作用発生頻度が高くなることがあります。
  注）これらの既往がある方は、問診票に必ず記入してください。
  注）場合によっては、当日造影剤は使用できないことがあります。
  注）どうしても、造影剤の使用が必要なときは、事前（12 時間前、２時間前）に、お薬を飲んで頂く場合があり、入院で検査をすることがあります。
- 腎機能が低下した方に造影剤を使用すると、NSF（腎性全身性線維症）になることがあります。このため基本的には腎機能が低下した方の造影検査はできません。
  注）腎臓に病気のある方、透析をされている方は、問診票に必ず記入してください。
  注）採血をして腎臓機能の検査を行うことがあります。結果が出るまで待って頂くことがありますのでご了承ください。

検査中の注意!!

- 造影剤による副作用は検査中または検査直後に起こる事が多いので、造影剤注入時や注入後に何か異常を感じた場合は、ためらわずに担当看護師または担当技師に知らせて下さい。

検査後の注意!!

- 造影剤は主に、尿中より排泄されます。排泄を促すため、検査終了後には水分を多めに摂るようにして下さい。
- 造影検査終了後、数時間から数日後に副作用症状（嘔吐、かゆみ、じん麻疹など）が出ることがあります。何か異常を感じられた場合には、来院されるか、下記の電話番号までご連絡下さい。

その他の注意!!

- 授乳中の方は、この造影剤を注射後２４～４８時間は授乳を中止する必要があります。

ご理解頂いたうえで、「造影検査問診票（MRI 検査）」への記入をお願いします。
上記について、ご理解頂き、検査に同意頂けましたら、「検査・同意書」にご署名をお願いします。

平成 30 年 1 月改定